

市内の学校で行われた引き揚げをテーマにした取り組みを紹介

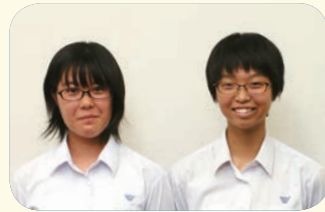


①②:東舞鶴高校文化祭で引き揚げに関するデジタル紙芝居や英語紙芝居、引揚体験者の原田二郎さんの体験を元に創作した劇「星はどこまでも〜シベリアに抑留された少年の実話」が披露された(9月7日)。

③:舞鶴を舞台にしたシベリア抑留と引き揚げをテーマとした音楽劇「君よ生きて(望月龍平シアターカンパニー)」が総合文化会館で上演され、日星高校の取り組みとして生徒が観劇(昨年7月3日)。

④:倉梯第二小学校の6年生を送る会では、卒業を控えた6年生がふるさと学習で学んだ引き揚げに関する史実や平和の大切さを下級生に伝えようと引揚劇を創作し披露された(2月27日)。

インタビュー 若浦中学校 よみきかせの会



生徒会会長(右) 藤村千尋さん(3年)
副会長(左) 高橋里沙さん(3年)

若浦中学校の音楽創美部がセレモニーなどで演奏を披露していたこともあり、生徒会で何かしたいと思ひ呼びかけ、現在7人で活動しています。今までに引揚記念館のイベントや学校の平和学習などで「クロ-シベリア抑留者とともに」と「お魚になった女の子」の紙芝居を発表しました。「お魚になった女の子」は作者の樟さんに直接指導を受け、擬音などをしっかり伝えられるようみんなで工夫して練習しました。披露したとき、聞いていただいた方がうなずかれたり、涙されたりして嬉しかったです。また、歴史を伝えられたことが地元の中学生として誇らしく、いい経験になりました。

引き揚げとは歴史の話で、重く感じられる人もいますが、発表した紙芝居は、人と人との交流も描かれているので、抑留とか戦争とか過酷な状況の中でも人間らしい心もあったことが伝わればと思います。これからは、今まで学んだ引き揚げのことを紙芝居を通していろんな人に伝えていきたいと思っています。

インタビュー NPO 法人 引揚・語り部の会



▲山本富美子さん

デイサービスで仕事をしているとき、利用者の方から戦争の話を知ることがありましたが、今まで戦争について目を背けていたところがあり、相づちするくらいで、話ができませんでした。一度は向き合ってみたいと思い、語り部養成講座があるのを知って問い合わせたのが語り部になるきっかけでした。最初は勉強だけのつもりでしたが、講師の話の内容を知れば知るほど、戦争や抑留、引き揚げの史実について深く知り、学んだことを伝えていきたいと考えが変わりました。

資料一つひとつにいろんな見方があり、記録には残っていないエピソードなどもあります。まだまだ勉強不足で、新人の語り部の方と一緒に伝え方などを勉強しているところです。誰もが嫌なことから目を背けたいところがあると思いますが、そこを見直して、事実をもとに、あの時代のようにならないためにはどうしたらよいかと、一人ひとりが考えることも大切だと思います。

体験者の方あっての今。その思いを受け止め、シベリア抑留や引き揚げの史実を再認識し、若い世代につなげていきたいと思っています。

世界記憶遺産登録 1周年記念事業

引揚記念館 ☎68・0836

◆1周年記念フォーラム

10月15日(土)13時から商工観光センター。日本ユネスコ国内委員会「世界の平和」選考委員会委員で東北大学教授の芳賀満さんやユネスコ世界記憶遺産有識者会議会長で東京女子大教授の黒沢文貴さんによる講演など。

◆引揚記念館特別企画展

「世界記憶遺産 - 日本の記憶遺産」
10月2日(日)~来年1月15日(日)9時~17時、引揚記念館。山本作兵衛氏炭鉱記録画や東寺百合文書、慶長遣欧使節関係資料のレプリカや画像パネルなど33点を展示。

◆引揚記念館ミュージアムトーク

10月2日から毎週日曜日、引揚記念館。11時から。引き揚げをテーマに同館の学芸員や舞鶴・引揚語りの会が出演。16日(日)には、田川市石灰・歴史博物館館長の安蘇龍生さんの特別出演も。



ユネスコ世界記憶遺産登録から1年
未来へつなぐ
平和への新たな取り組み

引揚記念館ナイスミュージアムで紙芝居を披露するよみきかせの会(8月11日)

昨年10月、同館所蔵資料「舞鶴への生還1945・1956シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記憶」がユネスコ世界記憶遺産に登録されて1年が経とうとしています。市では登録後も、市内の各学校で舞鶴であった引揚事業を学ぶ「ふるさと学習」や市外からの教育機関の修学旅行の受け入れ、資料のデジタルアーカイブ化(※)などに取り組んでいます。

また、本年1月にはウズベキスタンの日本人抑留者資料館のジャリル・スルタノフ館長の訪問の受け入れや海外調査、国際会議への参加。さらに、全国の引揚港となった都市での巡回展を開催するなど国内外に向けた活動も進めています。

認定から1年を迎える今年、1周年記念フォーラムや引揚記念館での特別企画展などを開催し、薄れゆく引き揚げの歴史と平和へのメッセージを国内外、そして未来へ送り続けていきます。

その他にも、引揚の歴史と平和の願いを発信する同館の活動は地元舞鶴にも根付き、語り部養成講座の再開や学校行事に引き揚げをテーマにした発表が行われるなど、未来へつなぐ新たな取り組みが始まっています。

※所蔵資料を電子化し保存・公開すること。

《引揚記念館》

企業版ふるさと納税「引き揚げの史実継承プロジェクト」

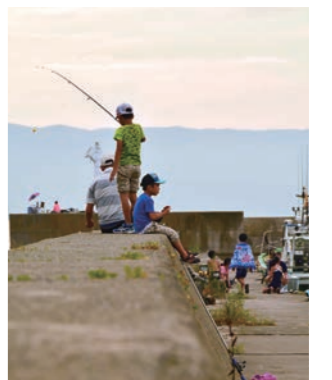
市の引き揚げの史実を後世に継承する地域再生計画「引き揚げの史実継承プロジェクト」が、内閣府の地域創生応援税制(企業版ふるさと納税制度)の対象として認定を受けました。このプロジェクトに対する市内外に本社を置く企業からの寄付は、社会貢献を通じた地方創生の推進につながり、また約6割の税負担軽減が受けられるものです。頂いた寄付金は、引揚記念館の整備や資料のデジタル化に活用させていただきます。市内外に本社を置く企業への呼び掛けなどにご協力をお願いします。

▶詳しくは、企画政策課 ☎66・1042へ。

index

- 2 引揚記念館所蔵資料
ユネスコ世界記憶遺産登録から1年
- 4 赤れんがフェスタ、日本遺産WEEK
- 6 舞鶴赤れんがハーフマラソン
EVENT PICK UP
- 8 シリーズ市政の「今」
子育て環境と質の高い教育の充実
- 10 MAIZURU TOPICS
- 12 10月はピンクリボン月間
早期発見が決め手!乳がん検診
- 13 認知症になっても
安心して暮らせる地域づくり
- 16 上下水道だより『すいすい』
- 市内学校めぐり
- 18 ポリテクカレッジ京都
舞鶴YMCA国際福祉専門学校
- 20 連載コーナー
- 22 カメラアイ
- 24 広報クイズ、全国大会等出場
- 25 マイ健康通信
- 26 お知らせコーナー
- 32 まいづる元気人、花図鑑

今月の表紙



9月2日、大浦半島の小橋地区、竜宮浜漁港の様子。子ども達には夏は短すぎたようで、まだまだ遊び足りなさそうに日が暮れるまで海を満喫していました。